

2014年 IBA-boys

[メルボルン国際親善大会]

(平成26年3月25日~4月3日)

[久喜チーム]



公益社団法人 少年軟式野球国際交流協会

2014年メルボルン遠征日程表

月 日	曜日	時間	日程内容
3月25日	(火)	8:10 11:10 17:45 21:15	成田国際空港 第1ターミナル4F南ウイング集合(Kカウンター12, 14) 成田空港発 (SQ637便) シンガポール空港着 (到着後空港で夕食, メルボルン行きに乗り換え) シンガポール空港発 (SQ227便)
3月26日	(水)	7:50 9:00 17:00 17:30	メルボルン空港着 通関後バスにて市内観光(途中昼食) ウェイバリー球場へ移動 ホームステイ家族の出迎え、役員はホテルへ
3月27日	(木)	8:00 8:30 9:30 13:00 15:00	ホームステイ家族が送迎(Waverly Baseball Ground) 第10回全オーストラリア国際大会・開会式 (Waverly Baseball Ground) 第一試合(9:30-11:00) / 昼食 第二試合(13:00 - 14:30) 歓迎会レセプション
3月28日	(金)	10:00 11:00 12:30 13:30	球場(Essendon Baseball Ground)集合(ホームステイ家族が送迎) 第三試合(11:00-12:30) 昼食(12:30 - 13:30) 第四試合(13:30 - 15:00)
3月29日	(土)	9:30 10:30 11:30 12:00 13:00 15:20	ベルグレイブ駅集合 (ホームステイ家族の送迎) パフティングビリー蒸気機関車搭乗 エメラルド駅到着後昼食 球場へ移動 (Upway Baseball Ground) 第五試合(13:00 - 14:30) 第六試合(15:20 - 16:50)
3月30日	(日)	午前中 13:00 14:00 16:00	ホームステイ家族とフリーな時間 (買い物等) 球場(Upway Baseball Ground)集合(ホームステイ家族が送迎) 第七試合(14:00 - 15:30) 第八試合(16:00 - 17:30)
3月31日	(月)	10:00 11:00 12:30 13:30 15:30	球場(Waverly Baseball Ground)集合(ホームステイ家族が送迎) 第九試合(11:00-12:30) 昼食(12:30 - 13:30) 第十試合(13:30 - 15:00) 最終戦 表彰式・閉会式
4月1日	(火)	終日	選手はホームステイプログラム(終日ホームステイ家族との自由時間)
4月2日	(水)	午前中 13:00 14:30 16:45 21:45 23:55	ホームステイプログラム & 荷物チェック ウェイバリー球場集合後、メルボルン国際空港に移動 メルボルン国際空港でチェックイン メルボルン国際空港発(SQ228) シンガポール着後 乗り換え シンガポール発 (SQ228)
4月3日	(木)	8:00 9:30	成田国際空港 第1ターミナル着 (SQ638) 通関後、解団式・解散

2014久喜市少年野球 オーストラリア遠征選手団名簿

役員

役職		氏名
団長	高橋敏明	TOSHIAKI TAKAHASHI
監督	吉田隆幸	TAKAYUKI YOSHIDA
総務	蓮沼佐登美	SATOMI HASUNUMA
主務	野田恵利子	ERIKO NODA
女子監督	土屋恵美子	EMIKO TSUCHIYA

選手

		氏名
1	高橋吉平	KIPPEI TAKAHASHI
2	浅岡達也	TATSUYA ASAOKA
3	内田 開	KAI UCHIDA
4	吉田光輝	KOKI YOSHIDA
5	加納優貴	YUKI KANO
6	斉川裕翔	YUTO SAIKAWA
7	中山颯太	SOTA NAKAYAMA
8	石井雄大	YUDAI ISHII
9	吉田遼矢	HARUYA YOSHIDA
10	久住大善	MASAYOSHI KUSUMI
11	杉山健太	KENTA SUGIYAMA
12	野田 夢	YUMEKA NODA
13	襟川直樹	NAOKI ERIKAWA
14	土屋あかり	AKARI TSUCHIYA
15	松尾昇太	SHOTA MATSUO
16	松本剛輝	GOKI MATSUMOTO
17	鈴木星一郎	SEIICHIRO SUZUKI

久喜チーム オーストラリア遠征試合結果

7勝3敗 準優勝

3月27日

チーム名	1	2	3	4	5	6	合計
2013Kangaroos	1	0	0	0	0	1	2
Kuki	4	0	0	0	0	1	5

チーム名	1	2	3	4	5	6	合計
Samurai	0	0	1	1	1	0	3
Kuki	0	0	0	0	0	0	0

3月28日

チーム名	1	2	3	4	5	6	合計
Kuki	2	0	0	0	0		2
Nadeshiko	2	2	0	0	×		4

チーム名	1	2	3	4	5	6	合計
Blue	0	1	2	2	3		8
Kuki	0	0	3	2	×		5

3月29日

チーム名	1	2	3	4	5	6	合計
White	2	3	0				5
Kuki	4	2	5				11

チーム名	1	2	3	4	5	6	合計
Kuki	2	2	6	4			14
2013Kangaroos	1	0	0	1			2

3月30日

チーム名	1	2	3	4	5	6	合計
Kuki	0	0	0	4	0	0	4
Samurai	0	0	0	0	0	0	0

チーム名	1	2	3	4	5	6	合計
Kuki	0	1	0	2	1	3	7
Nadeshiko	0	0	2	0	0	0	2

3月31日

チーム名	1	2	3	4	5	6	合計
Kuki	4	7	16				27
Blue	0	0	1				1

チーム名	1	2	3	4	5	6	合計
Kuki	1	5	5				11
White	1	9	0				10

メルボルン遠征は君達に素晴らしい思い出をくれた！

メルボルン遠征団 団長
高橋 敏明

メルボルン遠征の参加者の選手が 44 名、役員 5 名の総勢 49 名が 3 月 25 日成田空港に集合した。選手たちはオーストラリアという初めての海外に旅立とうとしている。私たちの目的は野球を通じての国際交流であり、メルボルンのビクトリア野球連盟のジュニアリーグとは長年の熱い交流が現在の関係を築き上げてきた。ホームステイを通しての遠征は選手たちにとって未知の経験であり、不安と期待の現実の間に胸をときめかしていた事を思い出す。選手がメルボルン遠征から何を学んでくれるだろうか？ 結果として「勇気」、「感動」、「自立」の IBA-boys のスローガンに結びついてくれることを期待したい。

私は今回で 13 回目のメルボルン遠征になる。過去には団長代行をしたことがあるが、今回は協会から団長を任され、その責任の重大さに心が引き締まる思いで有った。私の仕事は選手全員を無事にメルボルンまで引率し、ケガ・事故が無く、素晴らしい思い出を作るお手伝いをし、無事に日本に帰国する事が団長の責任で有ると思っている。

今回の遠征ではシンガポール経由のメルボルン行き初めての経験も役員の皆様の協力と選手たちの素晴らしい団体行動で無事にメルボルンに到着する事ができた。しかし時には、大きな声で「怒鳴った」時もありましたが……

長かった飛行機の旅も苦痛ではなかったと思う、それは「君達の夢」が始まろうとしているからだと思う、しかし選手は顔には出さないが「不安」の気持ちが現れ始めている事を感じていた、しかし「不安」の気持ちは選手の心から消えていく事になる。

開会式の当日は曇り空から小雨が降り始め、開会式は遅延となり、試合終了後にクラブハウス前で開会式が行われた。開会式の後に「サムライ」から紙屋主将が選手を代表して英語でスピーチをする事になったが、彼は堂々とした態度でスピーチを行った。彼にとって一生に一度の機会を彼はどのような心境で話したのかと思うと、私も心がときめきました。そして、「サムライ・なでしこ」全員による「ふるさと」合唱は素晴らしく、盛大な拍手を頂いたことに感謝を申し上げたい。「久喜」チームのパフォーマンスも素晴らしかった。ホストファミリーの両親・オーストラリアの野球選手たちを巻き込んでのパフォーマンスと終了後の盛大な拍手は選手たちの胸を打ち、思い出の 1 ページに書き込まれたことと思う。「素晴らしかった！」

選手諸君がメルボルンで貴重な体験をした事は君達の一生の財産であると思う。その機会を与えてくれた両親に感謝の気持ちを忘れてはならないと思う。

ホストファミリー家族との貴重な体験は君達の心に残る大きな機会であったと思う。「英語でお話ができなかったら？」と疑問に思った選手諸君は数多くいたと思う。「1 週間のホストフ

ファミリー生活が不安！」と思った選手諸君、振り返って見て欲しい。「問題はなかった」と私は思う。それは「勇気」であり、「勇気」が問題を解決し、「勇気」が貴重な体験を助けてくれたと確信している。私たちメルボルン遠征団は「全員協力」「和」「助け合う心」が大切であったと思う。知らない地区から参加をしている選手たちとの交流、親友ができた人もたくさんいると思う。

メルボルンでの野球交流の中で君たちが得たものは何かを考えて欲しいし、助け合う心が作り出すものが人をどれだけ大きくするかを考えて欲しいと思う。

今大会では「サムライ」に「なでしこ」「久喜」の選手たちの協力があり、助け合う心が大きな思い出を作ってくれたと思う。

君達はまもなく中学に進学すると思うが、中学では英語の授業が始まります。中学校・高校・大学と進学する間、英語は君たちについて来ます。英語からは絶対に逃げることができない学問であります。「逃げるな」「諦めるな」の気持ちを忘れないで欲しい。

君たちは英語の国のオーストラリアで生きた英語を聞き、そして話してきたのだから。貴重な体験は選手諸君の人生のトンネルの入口であり、トンネルを抜けた時に君たちは大きく成長していると思う。その貴重な体験を、素晴らしい思い出を多くの人に話して下さい。なぜなら貴重な体験をした本人だから。

最後に交流にあたり、大変お世話になったビクトリア野球連盟の事務局の方々、ホストファミリーの方々、クラブチームの方々に感謝申し上げます。

久しぶりの・・・オーストラリア遠征

久喜 監督 吉田 隆幸

6年ぶり6回目のオーストラリア メルボルン遠征に久喜チームの監督として選手17名と役員4名で3月25日～4月3日の10日間、行ってきました。

遠征前に17人の選手たちと顔を合わせて・・・第一印象は随分、子供っぽい子供たちだと思いました。野球はそこそこ上手でしたが、自分の身の周りのことや大人に対する会話等で6年生？と疑う子供が大勢いました。遠征？というより遠足？にでも行くようで今年はチョット大変かも(^_^)というのが君たちとのスタートでした。出発前に野球練習、英会話教室、「女々しくて」練習、遠征説明会と約2か月、毎週のように集めて17人の性格、動き、姿勢を探りながら注意指導しました。今まで両親、学校の先生、野球の指導者から注意されてきたことの繰り返し。そして私が君たちに三つのテーマ「思いやり」「自分の責任」「人と野球への気遣い」について初めて聞かされる話、物の見方、仲間同士の気遣いの大切さをしつこく注意、時には大きな声で叱りつけていました。出発前には君たちの耳が私の声の聞き分けと状況判断が少しずつ身に付いてくれて遠征への準備が出来てきました。

初めて外国へ出発した選手たちは日本での準備も功を奏し、大きなトラブルもなく日本→シンガポール→メルボルンと楽しく空の旅が出来たと思います。機内では初めのうち緊張していた選手もいましたがゲーム、映画等、今どきの機内サービスを満喫してニコニコ顔でリラックスしていました。

メルボルンに到着すると観光に出掛けました。選手達は見るもの全てが初めてで写真を撮ったり、野生のカンガルーがバスの窓から近くに見えた時は私も含め「オーストラリアに来た」と実感したと思います。夕方、いよいよホームステイ家族との対面を出迎えてくれたのは夏に久喜、鷲宮へ来たカンガルーズメンバーでチョットした再会風景。期待と不安が隠せない苦笑いで車に荷物を詰め込み手を小さく振りながら移動して初日のメインイベントが終了しました。

野球の試合は参加チームが二試合ずつ対戦して合計10試合のリーグ戦でした。私の監督としてポリシーは、もちろん勝利への采配。もう一つは選手全員に、なるべく平等に小学生最後の試合で出場チャンスを与える。具体的には全員ピッチャーと逆に全員控え選手です。違うポジションを守ることにより各ポジションの大切さや苦勞を少しでも知り、また自分の可能性を知るチャンスに繋がればこの先の野球、もっと大きく解釈すれば大人になった時の自分と周囲の人との「物差し」をはかる、物の見方を体験して欲しい意味。試合は前半、4試合で2013カンガルーズに初戦勝利して幸先良く1勝したがサムライ、ナデシコに圧倒的に敗退してチームのムードがとても下がってしまい3敗目をした時には試合前に選手達の怠慢な態度と私の出発前にあげた三つのテーマが理解出来ていなかったコトがあり残念ムードで試合開始しました。しかし、この3敗目でチームが目覚めて各自が「残り試合全勝」と17人が一丸となり本当に6連勝。サムライ、ナデシコにも最初の惨敗のお返しが出来て結果は7勝3敗の準優勝でした。3敗目が悔やまれますが・・・あの敗北があつて6連勝があつたことは事実でしたが優勝しきれなかったのはやっぱり監督の責任です。17人の選手には・・・ごめんなさい(><)

野球以外では一番心配で、一番期待していたレセプションの出し物「女々しくて」が大成功で出発前の練習で全員揃うことが無くて正直、本番で出来るか？でしたが・・・そこはレセプション担当の野田監督の指導、采配のおかげで見事でした。野田さんに感謝です。選手たちはメルボルンでのホームステイは満喫していたようです。毎朝、グラウンドで顔を合わせて話を聞くと話題は尽きません。ホームステイに戻る時も予定が満タンで楽しそうでした。

今年はカンガルーズ団長の息子さんで元メジャー、日本のプロ選手だった「マイケル ナカムラ」選手に会えてサインをもらったり一緒に写真を撮ったりサプライズがありました。蒸気機関車も全員でニコニコだった。



日本出発前から、色々な経験できた約2か月でしたが君たち17人のおかげで私も勉強になりました。有難う御座いました。厳しく「うるせえ～監督」と思っていたと思いますが君たちと会えて本当に良かったです。もう少し注文を君たちにするなら「我慢」「苦労」「感謝」をたくさんして下さい。野球と勉強をしていく上でこの三つを加えて味付けしてくれたら、その分だけ大きな「成功」「喜び」が付いてきます。

これからは中学、高校、大学、社会人として成長していく君たちには凄く期待しています。オーストラリア遠征で体験したことを活かしてこれから更に活躍してください。

遠征に君たちを出してくれた両親、そして君たちの成長の手助けをしてくれた各チームの指導者、同行してくれた蓮沼さん、野田さん、土屋さん、たくさんの方が周りから君たちを支えてくれていることに感謝を忘れないで下さい。本当にお疲れ様でした。頑張れ！！

最後に頼りないキャプテンの光輝に本当に良く協力してくれたことを皆に感謝します。数年後、みんなが20才になったら光輝から連絡網で久喜チームの集合を掛けますので思い出話でもしながら、お酒でも飲もうな(^^)



メルボルン遠征を振り返って

蓮沼 佐登美

まずは、今年もメルボルンへの遠征が無事に終わった事に感謝します。
毎年、同じ事ができる事は決して当たり前ではなく、たくさんの人の努力が重なって、このプログラムは行われていると思うので。

子供達にとって、好きな野球を大自然の中でやることは、とても楽しみだと思いますが、親から離れてまして海外でホームステイをすることは楽しみの他に不安も伴うことだと思います。そんな子供達にホームステイのコツとして、中村さんが言った言葉がありました。
ここは日本ではないので、Yes と No をはっきり言う事。そして、感謝の気持ちを込めて Thank you をたくさんいう事！と。
わかりやすく、きっと子供達の心にストンと落ちた事と思います。子供達が不安な気持ち

で臨む中、その言葉を聞いてほっとしたと思います。

そして、私もそう行動しよう！と思いました。

日本にいても、それはきっと大切な事なのだと思うので、継続して心掛けて行こうと思います。

考えてみれば、久喜の子供達以外は、成田空港で初めて会って、帰ってくるまでの間にかけてがえのない人間関係を築いて帰ってくるのだから、おそらく彼ら、彼女らの人生において一番の大仕事だったに違いありません。12歳という多感な時期にこのような体験ができた事が宝物になる時期が必ずくると思います。

行く！と決めた本人、そして、それを行かせてくれた親子さん、それぞれが感謝ですね。

2年前に参加した人が、妹が来ているから！とお父さんと一緒に顔を見せてくれた人もいて、このプログラムと人とのつながりを感じて、とても嬉しい気持ちになりました。

最後になりますが、今回 体調を崩された中で、いつもと同じように私達の面倒を普段と同じようにみて下さった中村さんに心から感謝します。

そして、これからますます、お体をご自愛されて、この素晴らしいプログラムを続けて頂きたいと思います。

私達も、できる限りのお手伝いをさせていただきます。

子供達の笑顔と共に このプログラムが末長く続きますように^^

感謝！

野田 恵利子

まずは今回、このような素晴らしい機会を与えてくださった関係者の皆様に、深く感謝いたします。ありがとうございました。

我家では、2007年から2014年までの間、計5回、5組10名のオーストラリアの子供達のホームステイをさせていただきました。それは、我家の子供たちにとっても、私にとっても、とても貴重な素晴らしい経験でした。

そして今回、末の娘がメルボルン遠征に参加するということで、私も役員として同行させていただいた訳ですが、メルボルン遠征は想像以上に楽しく、充実していました。

昨年、久喜にホームステイした子供達との再会は、本当に感動しました。6年前に我家にホームステイした子が会いに来てくれたり、5年前に我家にホームステイした子の成長した姿の写真を見せてもらえたり、今までに出会った子達の現在の様子を聞くことができたりして、本当に長く関わってきて良かったと思いました。

また、今回一緒に遠征した子供達と過ごした時間も、私にとって素晴らしい時間でした。子供達は、普通の海外旅行では経験できないことがたくさん経験できました。ホストファミリーのお父さん、お母さんに話しかけられて、試行錯誤しながら気持ちを伝えている様子は、とても微笑ましく、かわいらしくみえました。グラウンドでは、前半はあまり試合モードになっていなかった彼らも、後半は絶対に勝ちたいという気持ちがメキメキと出てきて、活気のある、たのしい試合ができるようになりました。みんなで声を掛け合い、励ましあう姿は、とても頼もしく感じました。

子供達は野球を通じて、様々なことを学ぶ事ができました。今、目に見える成長がなかったとしても、いつか必ず、この遠征で得たことが身になり、力になっていくと思います。そのお手伝いに少しでも関わられた事を、とても嬉しく思っています。本当に楽しい 10 日間でした。ありがとうございました。そして、私がメルボルン遠征に安心して行けるように協力してくれた家族にも、本当に感謝しています。ありがとうございました。

メルボルン遠征に行つて

主将10 吉田 光輝

僕の家にも夏、ホームステイを受け入れたキャメロンに再会することが楽しみで飛行機に乗りました。飛行機に乗ったのは初めてで不安なことがいっぱいありました。飛行機の中では酔って大変な思いをしましたが無事にメルボルンに着いてホッとしました。

観光ではバスでメルボルンの町を見学しました。他には教会やビーチ、オウムと遊べる所に行きました。そこではオウムを肩に、乗せたりエサやりをしました。その時オウムに噛まれたのはとても痛くて初日から怪我をしてビックリしました。

蒸気機関車で山の中を走った時は手足を出すことが出来てチョッと緊張したけど凄く良い体験でとても楽しかったです。



野球の試合は三日目から始まりました。一日二試合して毎日、野球が出来て楽しかったけど疲れました。僕が守ったポジションは主にセンターでした。他はピッチャー、キャッチャーもやりました。ピッチャーではフォアボールを何度か出したけど0点におさえられて良かったです。僕達の試合結果は7勝3敗で二位でした。優勝出来なかったことは、とても悔しかったです。



ホームステイ先はキャメロンの家でした。キャメロンの家族はお父さんとお母さんと弟が居て、家族と動物園、プール、買い物等に連れて行って貰い、とっても良くしてくれました。

僕が一番、心に残ったことはレセプションで皆と楽しく「女々しくて」を踊ったことです。僕はセンターで緊張したけど一生懸命踊りました。その日の帰りの車ではキャメロンがスマートホンに僕たちの「女々しくて」を動画に撮ってくれて何度も繰り返し流して鼻歌を歌っていました。僕は歌ってくれたことが、とても嬉しかったです。「女々しくて」の振付を熱心に僕達に教えてくれた野田さんに感謝です。

最後に初めてキャプテンをやって皆をまとめるのは大変だったけど、とても良い体験が出来ました。そしてオーストラリアに行かせてくれたお母さんありがとう。そのおかげで一生の思い出が出来ました。中学校に行っても野球を頑張りたいです。



オーストラリアに行って

1 齊川 裕翔

オーストラリア国際大会に参加して一番、印象に残ったことは第四試合の時です。スタメンでショートに入り・・・ほとんどショートなんて守った事がないので僕はすごくとまどい不安でいっぱいでした。やはりエラーをしてしまったけど監督は「失敗を気にするな！」と言ってくれたので頑張ることが出来ました。次のプレーではショートゴロをアウトにすることが出来て嬉しかったです。そして次に「ピッチャーに代わるぞ」監督に言われたので、とてもビックリしました。けれど僕はとても嬉しかったです。ピッチャーもほとんど経験がないのでストライクが入らず慌ててしまいました。そのあと落ち着いて投げたら三振をとれて嬉しかったです。

ホームステイではビクトリアマーケットに連れて行ってもらい買い物をしました。ビクトリア

マーケットの大きさにビックリしました。迷子になりそうなほど広くて買うものを見て選ぶのがとても大変でした。オーストラリアは全体的に土地が広いのでこの、お店も大きくて家も大きく庭がとても広がったです。

僕を受け入れてくれたホストファミリーの家はプールやトランポリンを持っていました。プールに入ったり庭でステーキを焼いて食べました。テニスやゲーム等をして楽しませてくれました。生活をして感じたことは英語が話せなくてもジェスチャーを混ぜて伝えれば何とか分かってもらえたけど、もっと英語を勉強しておけば良かったと思いました。ードルコインをくずした時に、こまかいコインの見分け出来なくて買い物をする時に困りました。このオーストラリア遠征で言葉の大切さを学びました。外国のことを勉強、出来た事に感謝します。そして遠征に参加させてくれたお父さん、お母さん、ありがとうございました。



メルボルン国際親善大会を経験して

2 松尾昇太

卒業式の翌日、僕達はメルボルン国際親善大会に参加するためオーストラリアに向けて出発した。出発前は初めての飛行機、海外、そしてホームステイでのこと全てが不安だった。実際、出発前に撮った写真の僕はとても不安そうな顔をしている。飛行機は思っていたより快適だったが、長時間乗っていたせいで到着して地面を歩いているときも、しばらくは地震がきたときのようにフラフラしておかしかった。

二日目は市内観光をした。野生のカンガルーを見かけたときは、さすがオーストラリアだと思った。



試合は3日目から第一試合が始まった。初めての試合で緊張したけど、久喜チームは最初からすごく声が出ていて良かったと思う。午後から歓迎レセプションがあった。久喜チームは「女々しくて」の歌に合わせて踊った。日本で何回か練習したときは恥ずかしくてちゃんと踊れなかったけど、本番ではおもいきり踊った。この時にオーストラリアの友達がたくさんできた。

第三試合はなでしこと対戦した。結果は負けてしまったけど、個人的には第一打席でいい方向のバントが打てたことが良かった。

第六試合はVICTORIAカンガルーと対戦した。僕は日本では主にショートやサードを守っていたが、この大会では希望通りセカンドを多く守らせてもらった。今日はそのセカンドでダブルプレーをとることができたり、バッティングでは2アウト2塁でサードラインぎりぎりのセーフティバントを成功させられたりと、チームの勝利に貢献することができた。

第9試合はVICTORIAブルーと対戦した。この試合では1年ぶりにピッチャーをした。2イニングしか投げなかったけど、0点におさえられたし、心配していたほどコントロールも悪くなくて良かった。

第10試合は最後の試合だったので、僕はひとつひとつのプレーをていねいに、確実にやろうと思って試合にのぞんだ。この日は初めてセンターを守り、センターゴロをうまく処理することができた。そして、10試合通して僕の打率は4割2分8厘という結果に終わった。



この日の夜、ホームステイ先の家では久しぶりに遠くで生活しているお兄さんが帰ってきてくれて、みんなで一緒に食事をした。僕は初めて親元を離れての生活が不安だったけど、ホームステイ先の両親に親切にしてもらったおかげで、楽しく過ごせることができた。フリー

の日は動物園に連れて行ってもらったり、他の家族と鉄板焼レストランに行ったりした。鉄板焼の店では、店員が色々なパフォーマンスをしてお客を楽しませていたのが面白かった。みんな明るい人達だった。



今回の遠征に参加して得られた経験はとても貴重だった。久喜チームは市内のいろいろなチームから集まってできたチームだったし、日本でもあまり練習できなかったから不安だったけど、試合数を重ねるうちに自然とチームの団結が生まれたと思う。また、試合で勝つことも大事だけど、英語でコミュニケーションをとることや、日本と違った生活習慣の中で生活することや、自分の意見をしっかり相手に伝えることの大切さも学んだ。この経験を、僕の次の代の後輩にも伝えて来年も僕のチームからメルボルンに行く人がいたらうれしいと思った。

最後に、この遠征でたくさんの貴重な経験を得ることができたのも両親のおかげなので、両親には感謝の気持ちでいっぱいだ。

オーストラリアに行って

3 吉田 遼矢

僕はオーストラリアに行っていていろいろな思い出が出来ました。

野球では、打撃はあまり良くありませんでした。守備は目立った失敗としてサードからの送球エラーがありました。でもその後の試合で良い結果が出せたので良かったです。

ホームスティでは、いろいろな所に行くことが出来ました。その中でも特に楽しかったことはルナパークに行ったことです。ルナパークではすごく大きなジェットコースターに乗ったりして、とても楽しかったです。他にもホームスティの家族とミニゴルフをしたりバンジージャンプをする等いろいろな体験が出来て良かったです。また夕食を外で食べることが日本に比べて多かったのがビックリしました。

こんなに楽しい思い出が出来たのも両親や祖父母のおかげなのでとても感謝しています。



オーストラリアの思い出

4 土屋 ひなこ

私は3月25日～4月3日までオーストラリアへ行きました。初めてのホームステイは緊張したけれどオーストラリアに行くことが楽しみで待ちきれなかった。

ホストファミリーは昨年、受け入れをしたハービーの家でした。メンバーは同じ太田クラブの襟川とサムライの仁志だった。



2日目は初試合でオージチームには勝ったけどサムライチームには負けてしまったが試合は楽しかった。その後、レセプションでゴールデンボンバーの「女々しくて」をみんなで踊ったけど少し恥ずかしかった。



いつも試合が終わってホームステイの家に帰ると庭でバッティングマシンを使ってバッティング練習をしたり王様ゲームをしたりした。王様ゲームは1回だけ勝ったけど皆、強くて勝てなかった。

3日目の朝、ハービーと一緒に昨年、私の家にホームステイをしたマッケンジーが来て、全員で卓球をしてから野球に行った。昨日と別のグラウンドでした。朝食はコーンフレークを食べた。試合ではサムライの試合の助っ人としてお手伝いに行った。相手はナデシコとオージーブルーチームと試合をした。帰宅後シャワーに入って夕食を食べた後に近くのショッピングモールに皆で行って買い物をした。帰ってきてからwiiをしてからハービーの家のプールに入った！

毎日、2試合あり、たくさん試合に出られた。普段、守ったことのないポジションを監督は守らせてくれてすごく楽しかったです。試合の間にクラブハウスで昼食を皆で食べるのも良かったです。

最後のフリーの日は前日の試合の終わりからハービーの家のビーチハウスに行き翌日、

皆でサーフィンや、ボディボードをして楽しみました。グラウンド以外で、こんなに楽しい経験が出来るとは思いませんでした。

本当にすごく楽しいメルボルンでした。野球をやっていて良かったと思います。この経験を活かして、これからの中学校生活でも野球と英語を頑張っていきたい!

オーストラリアに行かせてくれたお父さん、お母さん本当にありがとう。



オーストラリアで体験した事

5 浅岡 達也

僕は、オーストラリア遠征団に参加して色々な事を体験してきました。行く前は、あまり顔を合わせた事のない子達と一緒に野球の練習や英語などを通し、少しずつお互いを理解していました。初めての海外で、しかも野球をするなんて一生の中で何回もないと思うのでとてもワクワクしました。出発前に監督からは、相手を気遣う事が大事だといわれました。いつもは、大体レフトを守っていますがオーストラリアの試合では、違うポジションも守るので監督の言った気遣いが特に必要になりました。慣れないポジションで緊張してミスをしてしまいました。しかし皆がカバーしてくれて何とか切り替えしました。やはり皆の助けが大切だと感じました。

また、ホームステイ先では言葉を相手に伝えるために二人で協力し、どうにか理解してもらえた時は本当に嬉しかったです。夜にアイスクリームを買いに行ったりプールで遊んだりしてとても楽しかったです。この体験を生かし、日常生活でも役立てていきたいです。

今回は、このような体験をさせてくれた父や母、サポートしてくれた多くの方々に本当に感謝しています。とても為になり充実したオーストラリア遠征でした。また機会があるなら是非行きたいです。



オーストラリアに行つての感想

6 杉山 健太

僕はオーストラリア遠征に行つて一生、忘れられないとても楽しかつた充実した10日間になつたので良かったです。

野球では10試合で7勝3敗の準優勝でした。僕は、この3敗目の時にとても勉強になつたことがあります。それはベンチに居る四人がファウルボールを取りに行かないしヘルメットやバットも並べないし声も出さないで勝手にキャッチボールをしていた時、監督がベンチの僕たちに「中学生になつて野球をやる時にベンチの仕事も出来ないで勝手に試合に出る練習をしているような気遣いの出来ない選手は試合に使ってもらえない。試合に出ていない選手が支えてくれるから試合に出ている選手が全力でプレー出来る。試合に出ていても出ていなくても、お前たちに必要ない人は居ないんだ！」と言われて、僕は野球をやりながら遊びに来てるのではないと改めて感じました。

ホームステイでは英語をあまり話せなかつたけど僕たちを家族のように受け入れてくれたので不安がなくなりました。ホームステイ先はプールがあつたりトランポリンがあつて、とても楽しかつたです。食事では和食のレストランにも連れて行つてくれたので食事に困ることがなくて嬉しかつたです。

これからはオーストラリア遠征で学んだことを中学だけでなく社会に出てからも活かしたいです。この一生忘れられない友達と思ひ出を大切にしたいです。最後にオーストラリアに行かしてくれたお父さん、お母さん本当に有難う。オーストラリアに行つて少しだけでも成長したところを見せたいです。とても感謝しています。



オーストラリアでの出来事

7 加納 優貴

僕たち鷺宮のチームはオーストラリアに行って、ホストファミリーの家に泊まりました。オーストラリア遠征の3日目から試合が始まりました。僕が守ったポジションは、ピッチャー、キャッチャー、ファースト、ライト、センターでした。先発メンバーの時やベンチスタートの時、サブキャッチャーの時といろいろありました。僕たちのチームは10試合中7勝3敗でした。オーストラリアチームのメンバーは力も強く、投げる球も速く、うらやましいと思いました。僕もオーストラリアのみんなに負けないぐらい、体も大きくなって力もつけて、将来オーストラリアのメンバーと試合がやりたいと思いました。

ホストファミリーの人たちとは、フリーの日と試合が終わった後などに出かけました。フリーの日には、動物園に行きました。そこではオーストラリアの有名な動物、カンガルーやコアラなどを見ました。試合後には、鷺宮の友達と一緒にバイキングに行ったり、南半球で一番高い展望台ユーレカ・スカイデッキ88に行きました。高すぎてとても怖かったです。その日の夕食はビーフが挟まった、ハンバーガーを食べました。とてもおいしかったです。



他にトランポリンがたくさんあるところに行って、汗をかいて、とても疲れしました。その後にプールに行きました。その日は、とても暑かったので、気持ち良かったです。又、ホストファミリーの家では、ゲームや野球の話などしてとても楽しかったです。

オーストラリアのお父さんとお母さんに優しくしてもらって、とても安心しました。パフティングビリー鉄道に乗った時は、天気も良く日本に無いような電車の乗り方でびっくりしましたが、とても楽しかったです。最後の日は日本に帰りたくないぐらいでした。



オーストラリアで試合とレジャーをととも楽しんで、また行きたいと思いました。それにホストファミリーの人たちとまた会えたらうれしいです。それとお父さん、お母さん、オーストラリアに行かせてくれて本当にありがとうございました。役員でいっしょに来て下さった方々のおかげでわからないことが解決できました。みんなに感謝します。



メルボルン遠征

8 野田 夢

私は海外が初めてで、行く前は飛行機は大丈夫だろうか、オーストラリアは入国がきびしいと聞いたから入れるだろうかと色々な不安があり、ドキドキしていた。



空港では色々書くものがあり大変だった。荷物検査はちょっとドキドキした。いよいよ飛行機に乗る。どんなのかと思ったら、とても大きくてびっくりした。飛行機が飛ぶとき、耳がへんな風になって、嫌になった。けど、すぐに治って、映画やゲームをやっていた。

まずはシンガポールに行った。シンガポール空港で夜ご飯を食べた。サンドイッチを食べた。とてもおいしかった。メルボルン行きの飛行機に乗り、いよいよメルボルン！メルボルンに行く飛行機はみんな寝ていたので私も寝た。朝、起きるとメルボルンについていた。



メルボルンについて、バスに乗り観光した。最初に教会に行きミサをした。鳥がたくさんいる所は怖くてあまり近づけなかったけど、みんなの反応がおもしろくて楽しかった。海ではあまり時間がなかったけど、きれいな景色が見れた。グラウンドについて、各ホームステイ先の家族が迎えに来ていた。

私はドニーの家に泊まるので、ドニーの家の車に乗って家にむかった。ドニーの家は、平屋でありきれいではなかったけど、お母さん、お父さん、お姉ちゃん、妹、弟がいてとてもぎやかだった。3月27日(木) 初日の試合は、カンガルーズとサムライと戦った。一試合目、カンガルーズ。5-3で勝った。とてもうれしかった。二試合目、4-0で負けた。明日は、なでしことブルー。二試合とも勝てるように頑張ろうと思った。

3月28日(金) 私は、この日サムライチームに助っ人に行きブルーチームと戦い、勝った。そのころみんなは、なでしこと戦っていた。結果は負けた。もう一回なでしこと戦えるから頑張ろうと思った。二試合目は、ブルーチームと試合だった。サムライチームが勝てたから私達も勝てると思ったけど、負けてしまった。とてもくやしかった。

3月29日(土) 機関車に乗った。
足を外に出して乗ったので、風が気持ちよくとても楽しかった。



午後からの試合で、一試合目、ホワイトと戦った。私は、センター前クリーンヒット2打点！とても快感！気持ちよかった。試合の結果も勝ててうれしかった。二試合目、カンガルーズとの対戦。これからの試合は全部勝たなければいけない。カンガルーズにも勝った。明日はサムライ、なでしこと戦う。前に負けているから、絶対に勝ちたいと思った。

3月30日(日) 一試合目サムライと戦い勝った。二試合目、なでしこと戦い、こちらも勝った。今のところ、5勝3敗。あと2試合、気合を入れて頑張ろうと思った。3月31日(月) 一試合目ブルーと戦い、最後の日なので全員打席に入った。このチームには、前にやって負けているので、しっかりと集中して



やらないといけないと思った。結果は勝った。このままホワイトにも勝てば優勝もある。最後

の試合、一点差でギリギリ勝った。でも、サムライがカンガーズに勝ったので、私たちは惜しくも二位になってしまった。とてもくやしかった。



4月1日(火) 1日フリー。動物園に行った。動物園にはめずらしい動物がたくさんいておもしろかった。午後からおみやげを買いに行った。ドニーのおじいちゃんのトレーラーハウスにも行った。1日、とても楽しかった。

4月2日(水) 午前中は家にずっといて写真をたくさん撮った。そのあと、コストコに行ってお昼ご飯を食べて、空港に連れていってもらった。

8日間は、とても短く感じた。もうちょっといたい気持ちもあった。さよならするときにはさみしかったけど、ドニーは二年後にまた私の家に来ると言っていたので、また会えるかもしれないから、楽しみにしていよう。



ホームステイも楽しかったけど、この遠征で違うチームから集まって、一緒に野球ができたことがとても楽しかった。またみんなとグラウンドにいる時間が、充実していた。この仲間であって、本当に良かったと思う。みんな、ありがとう！

最後に、10日間、私たちのためにいろいろとやってくださった役員のみなさん、中村さん、ありがとうございました。特に、吉田監督は厳しかったけれど、これからの私達に必ず必要なことをたくさん教えてくれました。ありがとうございました。

そして、こんなすばらしい経験ができたメルボルン遠征に行かせてくれた両親には、本当に感謝しています。お父さん、お母さんありがとう！

オーストラリアでの思い出

9 襟川 直樹

僕は、オーストラリアに行くことが決まり、ハービーの家にホームステイすることになりました。夏に太田クラブにホームステイした友達だったので、ワクワクして早くオーストラリアに行きたくなりました。オーストラリアでの思い出は、たくさんあります。

一つ目の思い出は、やっぱり野球です。僕のポジションはピッチャーなのですが、オーストラリアでは、あまりピッチャーができず、残念でした。でも、先発で投げた1試合目は勝つこ

とができました。ヒットも打つことができ、楽しかったです。さむらいチームのおたすけに行ったりもしました。最後の三日は、全試合勝って、優勝候補のさむらいチームにもなでしこチームにも勝って、本当にうれしかったです。全打席出塁の日もあって、良かったです。準優勝できて良かったです。

二つ目の思い出は、ハービーの家での出来事です。1番楽しかったことは、ハービーと遊んだことです。バッティングマシーンで遊んだり、卓球をしたり、ビリヤードをしたり、Wiiをしたりしました。楽しいことだらけの家でした。初日の夕食のビーフステーキが、最高においしかったです。ショッピングにはハービーのお父さんお母さんと行きました。

ビーチに行く前の日にビーチハウスに泊まりました。別荘があるなんてビックリです。

ハービーのお父さんは、僕たちが試合をしてる所や、家で遊んでる所をいつもカメラで撮ってくれました。お母さんはおいしいごはんを作ってくれたり洗濯をしてくれました。本当にありがとう。オーストラリアでの日々は、楽しいことばかりでした。ハービーとは、一生のお友達です。もしもまたオーストラリアに行くことがあったらハービーと、ハービー家族、犬、ねこに会いに行きたいです。

初めはオーストラリアに行くのが不安で怖かったけど、オーストラリアに行かせてくれて本当にありがとう。行って本当に良かった！！！！！！



オーストラリア遠征

11 久住 大善

僕はオーストラリア遠征に行って色々、学び体験することが出来ました。野球だって人生の糧になることがたくさんありました。例えばチームの主力選手、四人が抜けてしまったホワイトチームの試合では野球の力がなくて試合に出してもらえないのでは無く、ベンチで補欠の仕事覚えるという意味で試合に出なくてもチームのために仕事があるということが、とても勉強になりました。

飛行機の中で寝たのも初めてだし、あんなにうるさくしたのも初めてだったので新鮮でした。

今の自分と生活面で似ていると言える所の少ない場所で生活するとは思いませんでした。今、使っている物や住み方など日本がすべて正しいのではなく水道水が飲めなくても10日間、過ごせました。

久喜チームで上手な人ばかりだと思っていたが、サムライチーム、なでしこチーム、オーストラリアチームの選手もとても上手な選手が多く、その人たちと友達になったり交流することが出来ました。

パフフィンビリーではガタガタゴトゴトしていたので手足を外に出している時と木の橋を渡る時は、すごく心配しましたが心配よりも川が通っていたのでビックリ、ワクワクしました。他には、すぐ手の届きそうな場所に木の葉っぱがあり、ただ移動するだけの蒸気機関車ではなく楽しませてくれた蒸気機関車は一生の思い出になりました。

フリーの日はホストファミリーのみんなとトランポリンをしたり買い物にも行きました。少ししかしゃべれない僕はスポーツ等を通して交流が出来ました。

オーストラリアに行かせてくれた両親と連れて行ってくれた監督、IBA役員の方々に感謝します。



オーストラリアで学んだこと

12 石井 雄大

僕はオーストラリア遠征で貴重な体験がたくさん出来て本当に良かったです。こんな体験をした人は少ないと思うのでこの体験をこの先、活かしていきたいです。遠征で優しいオーストラリアの方々や監督、IBA役員の方々、そして両親にとっても感謝しています。

試合ではオーストラリアチーム、サムライチーム、なでしこチームとどのチームもとても強いところばかりでした。でも後半はみんなが頑張っ勝ち続けることが出来ました。そして準優勝することが出来ました。オーストラリアでの10試合は自分にとって学ぶべき所がたくさんありました。今回の試合で自分は少し成長出来たかなと思います。そして今回は何より

友達がたくさん出来たのも今回の遠征で得た一つです。オーストラリアのチーム、久喜チームとは更に深い友情が出来ました。サムライチームや、なでしこチームからも少し友達が出来ました。また機会があったら、みんなと会いたいです。



今回の遠征が初めての海外だったので不安なこともあったのですがホームステイ先の家族や久喜チームのみんなといる時間が楽しかったので不安は無くなりました。しかし、生活していく上で言葉が通じないのはとても不便でした。多少の英単語で頑張ってしゃべりましたが意味が通じてなかったり、意味が分からないことがありました。でも何とか最低限の事は分かったので意外といけるもんだなと思いましたので、また海外に行きたいと思います。

今回の遠征で、たくさんの思い出が出来ました。どれも一生、覚えておきたいものばかりです。また機会があれば久喜チームのみんなとオーストラリアに行きたいなと思います。そして今度はオーストラリアに行かせてくれた両親をオーストラリアに連れて行きたいです。本当に有難う御座いました。

オーストラリアで学んだこと

13 内田 開

僕は、三月二十五日から四月三日にかけて、野球の世界大会に出場するため、オーストラリアに行きました。

オーストラリアでの野球の試合を振り返ると、毎試合どれもいい内容だったので、とても楽しかったです。また、日本の試合ではやったことのないポジションを守ったときはとても大変

でしたが、いつもそのポジションを守っている人の気持ちを知ることができて勉強になりました。このことは、相手の気持ちになって、人のことを考えてあげられる人間になるためのよい経験になったと思います。

ホームステイを振り返ると、とてもよい思い出が頭の中にかんできます。まずうれしかったことは、去年の夏に僕の家で受け入れたオーストラリア人のベンが、日本での出来事をよく覚えていてくれて、しかも僕がそのベン家にホームステイ出来たことです。次にうれしかったことは、行く前から言葉が通じないことは分かっていたのですが、僕たちがのどがかわいていたときには、ホストファミリーが何も言わなくても水を買ってきてくれたりしたので、言葉は通じなくても心は通じるんだなあと感じられたことです。

オーストラリアでのホームステイと野球の試合はとても楽しく、これから生きていく上で大切なことを学ぶ、よい経験ができました。それは、相手の気持ちを思いやることと、言葉は通じなくても気持ちは通じるということです。僕はこの経験を活かし、立派な大人になりたいと思います。

最後に、オーストラリアに行かせてくれたお父さん、お母さんには感謝の気持ちでいっぱいです。



オーストラリア遠征10日間の旅

14 松本 剛輝

僕はオーストラリア行かって決まった時は、とても楽しみだったけどちょっとだけ不安でした。でも行ってみると、すごく楽しかった。飛行機も不安だったけどちょっと耳鳴りがしたけど飛

行機の中にゲームや映画があつてすごく楽しかった。

野球では7勝3敗で優勝出来なかった。でもピッチャーをやっていない自分がピッチャーをやつて完封できて良かったです。ヒットは10試合中、4本しか打てなくてちょっと悔しいし、もっともっとヒットを打ちたかったです。他にもファースト、ライト、センター、レフトをやりました。それも楽しかったです。



僕はホームステイが一番不安でした。会ったこともないし「こわい人？」とか思っていたけど、実際に会ってみるとすごく優しくかったです。お母さんの料理もすごく美味しく、特に美味しかったのは、ピザとパスタです。休日は動物園に行きました。動物園は日本とチョッとだけ違いました。コアラ、カンガルー、珍しい鳥がいました。鳥にエサをあげたりするサービスがあり、とても楽しかったです。そのあとプールに行きました。日本にはあるウォーターライダーが無かったり水がしょっぱかったりと日本と違いましたがそれはそれで楽しかったです。

最後に、お父さん、お母さん、オーストラリアに行かせてくれて本当に有難う御座いました。引率してくれた監督たちのおかげで無事に帰国できました。本当に有難う御座いました。



最高だった 10 日間

15 高橋 吉平

ぼくは、10 日間のオーストラリア遠征に参加しました。オーストラリアに行ってまず思ったことは、とても楽しい 10 日間でした。オーストラリアの人たちはみんな優しく、とても楽しくて充実した6日間になりましたし、野球でも、大会では、「準優勝」という結果が残せたことがとても嬉しかったです。でも、正直準優勝じゃなくて優勝したかったです。



ぼくが、オーストラリアで一番いやだったのが日本とオーストラリアでの食生活の違いでした。ぼくは、日本であまり油っこいものを食べないというよりあまり好きではありませんでした。それが、オーストラリアのホームステイ先では、あげものなどの油っこいものが多かった、ちょっときつかったです。でも、こういうところも日本とオーストラリアの違いなんだということ、身をもって知ることができたので、これもこれで良い体験になったと思います。



ぼくは、今回のオーストラリア遠征で、英語や、日本とオーストラリアの野球や文化の違い、お金の違いなどいろいろなことを学ぶことができました。監督におこられたこともあったし、不安でいっぱいだったときもあったけど、どれも良い経験・思い出になりました。この経験は

将来、必ず野球・勉強・生活の中で生きてくると思います。そして、この貴重な体験をさせてくれたお父さん、お母さんにはもちろん、監督、一緒に行ってくれた役員のひとたちにも、感謝したいです。そしてこの気持ちをいつまでも忘れないようにしたいです。



オーストラリアに行って

16 中山 颯太

僕は3月25日、オーストラリアへ出発しました。飛行機に乗った時はドキドキして、しっかり着くのか分からなくて心配でした。着いた時はカンガルーズの人たちが待っていてくれました。

試合の結果は2位でした。僕はヒットを3本打って、打点は6点でした。僕は、なでしこ、カンガルーズの試合の時にヒットを打って良かったです。

僕が泊まる家はレアムとカイオウの家でした。家に行った時は仲良く過ごせるか心配でした。でもレアムはとても、やさしいし面白くて過ごし易かったです。

フリーの日には動物園やプール、バンツというトランポリン等がある場所に連れて行ってもらいました。プールの一番深い所は足が届かなくてジャンプをしていないと溺れてしまい

そうになりました。動物園ではコアラ、カンガルーを見ることが出来ました。バンツはトランポリンをしながらドッチボールをしてとても楽しかったです。海にも行きました。海は寒くて、あまり入れなかったけど楽しかったです。また機会があれば行きたいです。

最後にオーストラリアに行かせてくれたお父さん、お母さん、おばあちゃんに感謝したいです。



オーストラリア遠征

17 鈴木 星一郎

ぼくの今回の遠征の目標は、優勝することでした。野球を始めた三年生の時から、このオーストラリアへの遠征には、参加したいと思っていました。今回参加することができて、うれしく思いました。

毎日の努力の成果をオーストラリアでも生かせるようにがんばろうと思っていました。夏に戦ったカンガルーズとまた戦えるのも楽しみの一つでした。

それにこの遠征は、ぼくにとって初の海外体験だったので、とても楽しみでした。飛行機の窓から見た景色がとてもきれいでした。

オーストラリアに着くと、日本とはちがう感じがしました。ホストファミリーが出迎えてくれて、去年の夏、ぼくの家泊まってくれた Liam 君と凱王君と家族のみなさんと会うことができ、とてもうれしかったです。そして、二人の家にホームステイさせてもらい、とても楽しい毎日でした。

試合は、七勝三敗ととても悔しいことに、優勝を逃しました。自分としては、ホームランを二本しか打てなくて、とても悔しかったです。でも、良い思い出でした。

たくさんの方が支えてくれたことに感謝しています。

